

# (仮称)穂高クリーンセンター ごみ処理施設整備に係る 環境影響評価方法書の概要

平成27年12月

穂高広域施設組合

方法書P1～

# 1. 事業計画の概要

# (1) 対象事業実施区域周辺の概況 方法書P19,20

## ■ 対象事業実施区域

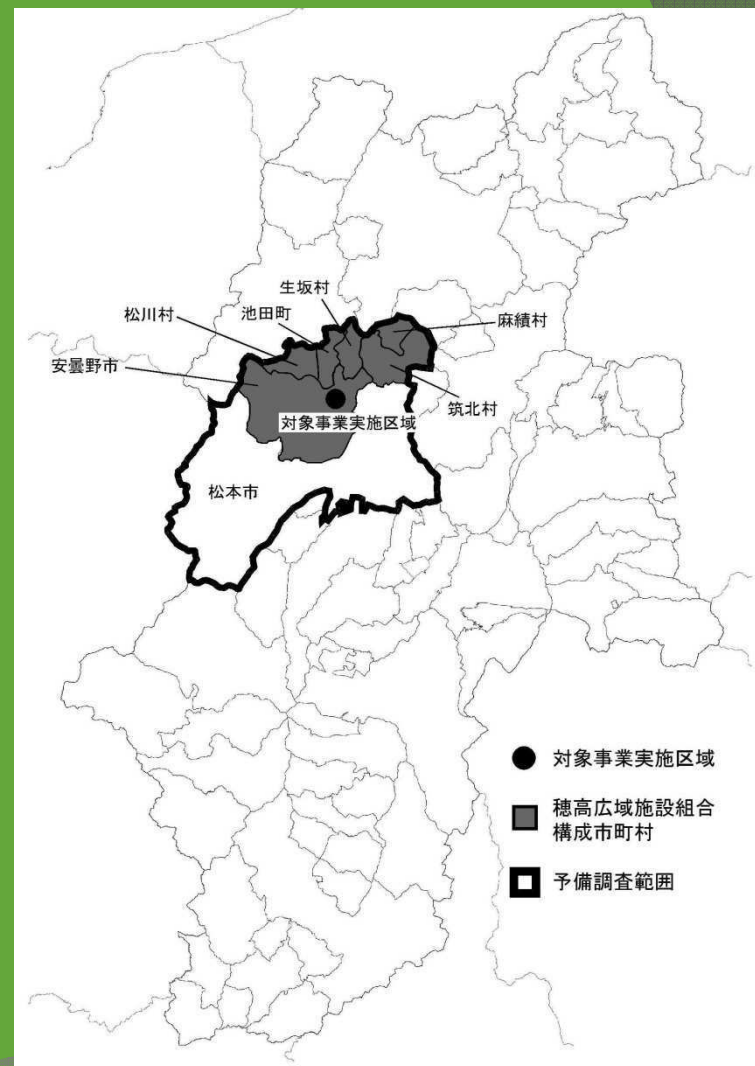
長野県安曇野市穂高狐島地区

### <位置・地勢>

- ・西に北アルプス連峰
- ・高瀬川、穂高川、犀川の三川合流地点に位置

### <気候>

- ・典型的な内陸性気候で気温の較差が大きく降水量は少ない



## (2) 事業実施の背景

方法書P1,2

### ■ 既存ごみ焼却施設

- ・平成6年9月竣工で老朽化が進む
- ・平成24年度更新の目標を先送りしてきた

(敷地内のし尿処理施設の改造を優先)

- ・温水利用をしているがエネルギー回収を進めたい

### ■ 建設候補地

- ・現有施設の隣接地(南西側)
- ・平成16年度に地元地区と建替えに関し協定を締結
- ・地元地区の要望を受けて建替えまでの間はグラウンドとして使用



現有施設(焼却プラント)  
150t/日(50t/16h×3炉)

## (3) 事業計画の概要

方法書P1

### ■事業の名称

(仮称)穂高クリーンセンターごみ処理施設整備事業

### ■事業者の名称

穂高広域施設組合

構成市町村:安曇野市、池田町、松川村、生坂村、筑北村、麻績村

### ■事業の種類

廃棄物処理施設の建設

ごみ焼却施設(処理能力120t/日)

→ 県環境影響評価条例「処理量4t/時以上」に該当

## (4) 施設整備に関する基本方針 方法書P3

### ■ 施設整備の基本方針

- ① 最終処分量の最小化
- ② 循環型社会を目指した資源・エネルギー回収の推進
- ③ 環境負荷の低減
- ④ 処理費用の適正化と情報公開
- ⑤ 可燃性粗大ごみの処理
- ⑥ 災害に強い施設

## (5) 対象事業実施区域(1/4) 方法書P5

### ■ 対象事業実施区域

安曇野市穂高狐島地区

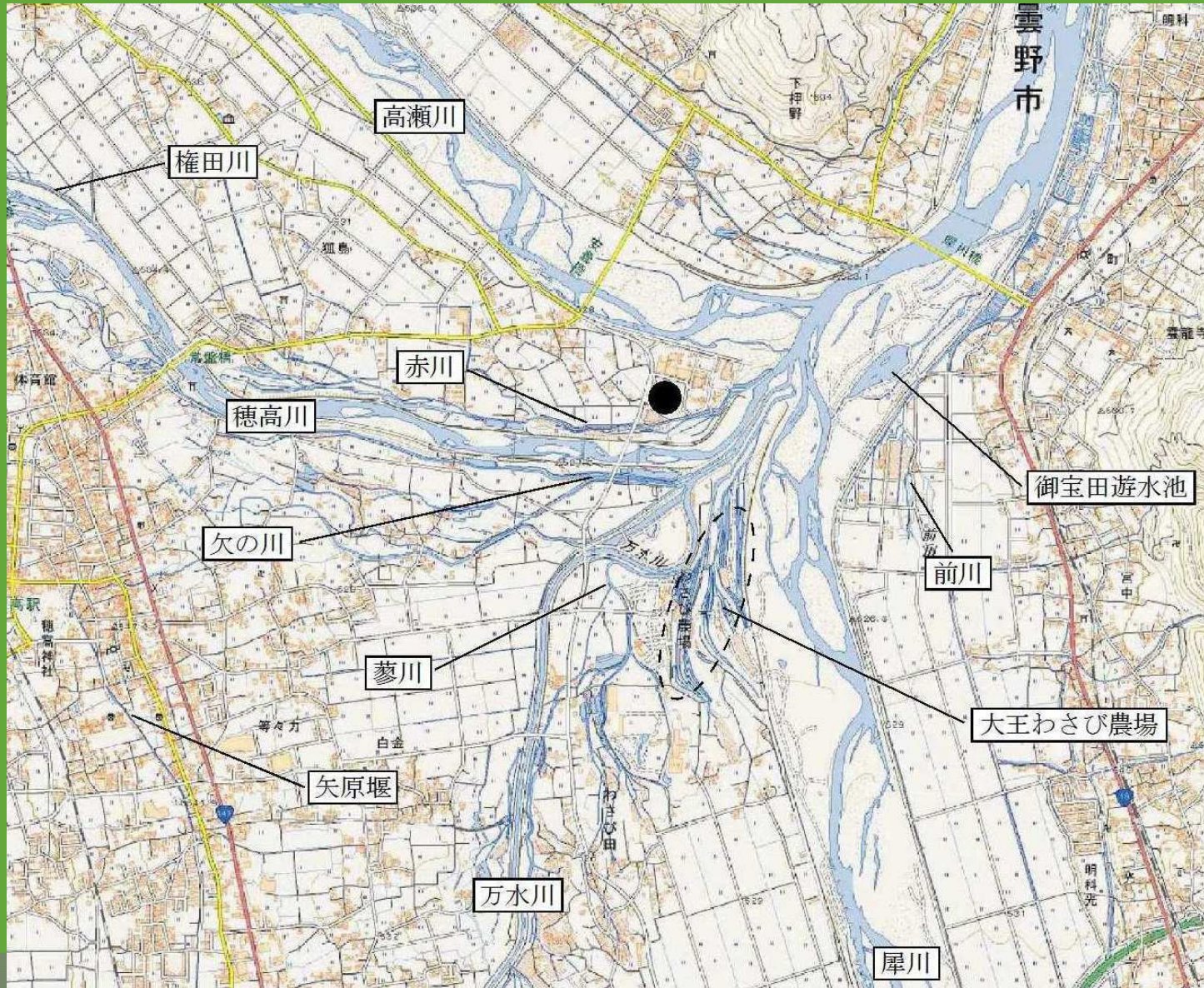
〈方法書予備調査範囲〉

対象事業実施区域から半径4km  
の範囲

(安曇野市、池田町、松本市)



# (5) 対象事業実施区域(2/4) 方法書P89





# (5) 対象事業実施区域(3/4) 方法書P6



## (5) 対象事業実施区域(4/4)



## (6) 施設計画(1/5)

方法書P7,8

### ■ 敷地面積

17,000m<sup>2</sup>

### ■ 処理方式

次のうちいずれかを選択

- ・焼却
- ・焼却＋灰溶融もしくはガス化溶融
- ・バイオガス化＋焼却
- ・バイオガス化＋焼却＋灰溶融  
もしくはバイオガス化＋ガス化溶融

### ■ 炉形式

全連続焼却方式(24時間稼働)を想定

### ■ 施設規模

120t/日(60t/24h×2を想定)

### ■ 処理対象物

- ・可燃ごみ
- ・可燃性粗大ごみ
- ・可燃性残さ(中間処理残さ)
- ・残渣(し尿処理のし渣)
- ・し尿汚泥
- ・災害廃棄物

## (6) 施設計画(2/5) 方法書P7

### ■ バイオガス化施設とは

- ・ 生ごみ、し尿などを発酵させ、メタンガスを回収する施設
- ・ メタンガスのエネルギーを有効利用(発電、燃料供給等)
- ・ エネルギー供給および温室効果ガスの排出削減に寄与
- ・ 湿式と乾式があるが、当組合では排水の少ない乾式の導入を検討
- ・ 可燃ごみ中の生ごみ、剪定枝等 及び紙が処理対象となる
- ・ 発酵後の残さは焼却処理する
- ・ 当組合では平成17年～24年に環境省の実証実験が行われた



# (6) 施設計画(3/5)

方法書P7

## ■ 稼働開始年度

平成33年度

## ■ 実施予定期間

年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
環境影響評価	■	■	■	□	□	□	□
処理方式検討	■	□	□	□	□	□	□
施設建設	□	□	□	■	■	■	□
施設稼働	□	□	□	□	□	□	■

既存ごみ処理施設の解体時期は未定

## (6) 施設計画(4/5) 方法書P9

### ■ 排ガスの計画値の想定

項目	計画値
ばいじん量	0.01 g/ Nm <sup>3</sup> 以下
硫黄酸化物	50 ppm以下
窒素酸化物	100 ppm以下
塩化水素	50ppm以下
ダイオキシン類	0.1 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> 以下

※現段階での想定

## (6) 施設計画(5/5) 方法書P10,12

### ■ 排水計画

プラント排水: 再利用し放流を行わない

生活系排水: 浄化槽で処理後、隣接する赤川に放流する計画

### ■ 余熱利用計画

- ・エネルギーセンターと位置づけ、回収したエネルギーを有効活用
- ・あづみ野ランドに引き続き熱を供給
- ・発電を行い、温室効果ガス排出削減に寄与

方法書P162～

## 2. 環境影響評価の項目



## 2. 環境影響評価の項目 方法書P179

事業の特性及び地域の特性を考慮し、以下の17項目を選定

環境要素 影響要因	大気質	騒音	振動	低周波音	悪臭	水質	水象	土壌汚染	地盤沈下	地形・地質	植物	動物	生態系	景観	ふれあい活動の場	文化財	廃棄物等	温室効果ガス等
工事	○	○	○	-	-	○	○	△	△	△	○	○	○	-	○	-	○	-
存在・供用	◎	○	○	△	◎	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	-	○	○

◎:重点化項目、○標準項目、△:簡略化項目、-:非選定項目

方法書P180～

# 3. 調査、予測及び評価

方法書P180～

# (1) 大気質

# (1)大気質 調査

方法書P180～

## 調査項目

### ①環境大気

二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、  
二酸化窒素、ダイオキシン類、  
塩化水素、水銀、微小粒子状物質、  
降下ばいじん

### ②道路周辺大気

二酸化窒素、浮遊粒子状物質、  
ベンゼン、微小粒子状物質

### ③気象

地上気象、上層気象

## 調査頻度

大気質：4季(各7日間)

地上気象：通年

上層気象：4季(各5日間)



# (1)大気質 予測 方法書P184

## 予測事項及び予測方法

### ①工事による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
運搬 (機材・資材・廃材等)	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	大気拡散式(プルーム・パフ式)により予測	道路周辺大気の現地調査地点
	粉じん (降下ばいじん)	工事計画に基づき定性的に予測	
土地造成 掘削 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	大気拡散式(プルーム・パフ式)により予測	最大着地濃度地点及び周辺住居地域
	粉じん (降下ばいじん)	工事計画に基づき定性的に予測	

# (1)大気質 予測 方法書P184

## 予測事項及び予測方法(つづき)

### ①存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	大気拡散式(プルーム・パフ式)により予測	道路周辺大気の現地調査地点
可燃ごみ処理施設の稼働	二酸化硫黄 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 ダイオキシン類	【長期平均濃度】 大気拡散式(プルーム・パフ式)により予測	対象事業実施区域及びその周辺
	二酸化硫黄 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 塩化水素	【短期高濃度】 上層気象の結果等に基づき、 特定条件について大気拡散式(プルーム・パフ式)により予測	
廃棄物の搬出・処理	降下ばいじん	廃棄物の搬出計画及び飛散防止対策に基づき定性的に予測	対象事業実施区域及びその周辺

# (1)大気質 評価

方法書P185

## 評価の内容

予測の内容に準じる

## 評価の方法

### 1)環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、  
環境保全への適正な配慮がなされているか評価

### 2)環境保全のための目標等との整合の観点

環境基準及び塩化水素に係る目標環境濃度を環境保全目標として、  
目標との整合が図られているか否か評価

方法書P186～ 方法書P192～ 方法書P195～

## (2) 騒音、振動、低周波音



## (2) 騒音、振動、低周波音 調査

方法書P186,188,192,195

### 調査項目

総合騒音・振動

道路交通騒音・振動

特定騒音・振動(工場騒音、振動)

交通量、走行速度

地盤卓越振動

低周波音

### 調査頻度

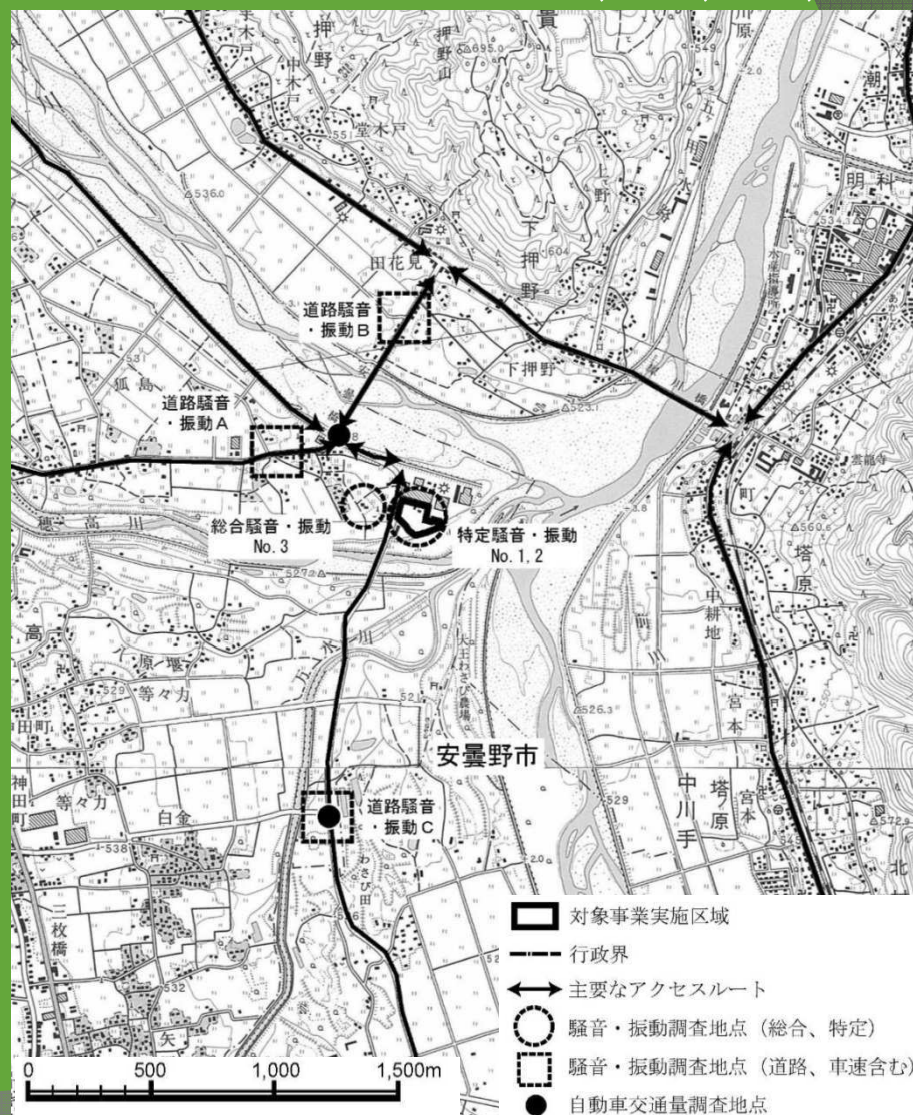
2季(夏季、冬季)

24時間連続測定

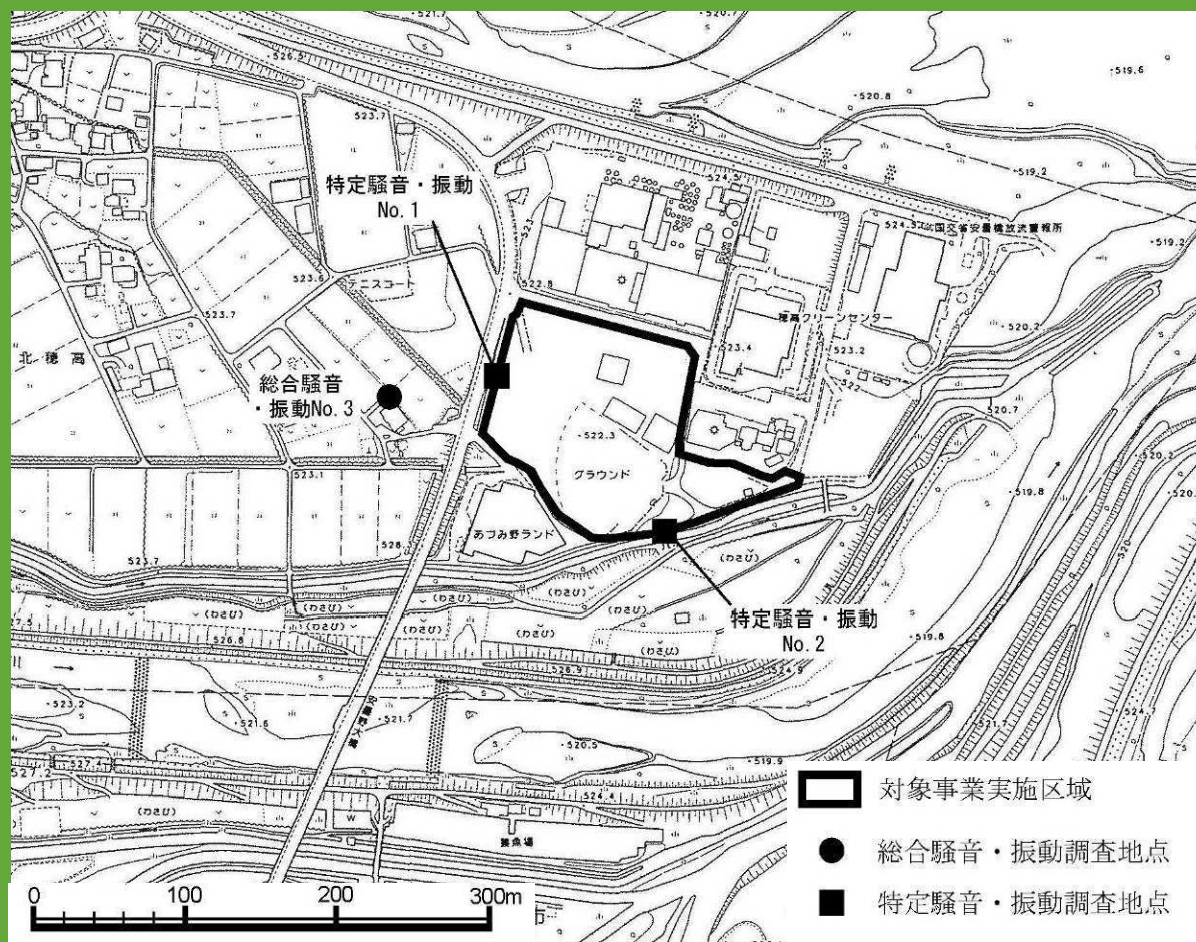
各平日・休日

(道路交通騒音・振動は平日のみ)

(地盤卓越振動は1回のみ)



## (2) 騒音、振動、低周波音 調査 方法書P189



低周波音も同じ調査地点で実施

## (2) 騒音、振動、低周波音 予測 方法書P190

### 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響(騒音)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
運搬 (機材・資材・廃材等)	道路交通騒音	音の伝搬理論に基づく予測式 (ASJ RTN-Model2013)により 予測	道路騒音の現地調査地点
土地造成、掘削 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	総合騒音 建設作業騒音	音の伝搬理論に基づく予測式 (ASJ CN-Model2007)により 予測	敷地境界及び周辺住居地 域

#### ② 存在・供用による影響(騒音)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	道路交通騒音	廃棄物搬入車両の通行台数 に着目して定性的に予測	道路騒音の現地調査地点
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働	総合騒音 事業所騒音	音の伝搬理論に基づく予測式 により予測	敷地境界及び周辺住居地 域

## (2) 騒音、振動、低周波音 予測 方法書P193

### 予測事項及び予測方法

#### ① 工事による影響(振動)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
運搬 (機材・資材・廃材等)	道路交通振動	建設省土木研究所提案式により予測	道路振動の現地調査地点
土地造成、掘削 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	建設作業振動	振動の距離減衰式により予測	敷地境界及び周辺住居地域

#### ② 存在・供用による影響(振動)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	道路交通振動	廃棄物搬入車両の通行台数に着目して定性的に予測	道路振動の現地調査地点
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働	事業所振動	振動の距離減衰式により予測	敷地境界及び周辺住居地域

## (2) 騒音、振動、低周波音 予測 方法書P197

### 予測事項及び予測方法

#### 存在・供用による影響(低周波音)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働	低周波音	類似施設における測定結果 等を基に定性的に予測	敷地境界及び周辺住居地 域

## (2) 騒音、振動、低周波音 評価

方法書P191,194,197

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1)環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

#### 2)環境保全のための目標等との整合の観点

騒音：環境基準及び安曇野市公害防止条例の規制基準を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか評価

振動：要請限度及び振動規制法の規制基準を参考として環境保全目標を設定し、その目標との整合が図られているか評価

低周波音：「低周波音問題対応の手引き書」参照値等を参考に環境保全目標を設定し、その目標との整合が図られているか評価

方法書P198～

## (3) 悪臭

# (3) 悪臭 調査 方法書P198～

## 調査項目

特定悪臭物質

臭気指数

## 調査頻度

2回(夏季、冬季)





# (3) 悪臭 予測 方法書P200

## 予測事項及び予測方法 存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	廃棄物搬入車両の悪臭	現況調査結果、類似事例等を基に定性的に予測	敷地境界及び周辺住居地域
可燃ごみ処理施設の稼働	煙突排出ガスによる悪臭	大気の拡散式に基づき予測	敷地境界及び周辺住居地域
	施設からの悪臭の漏洩	類似施設の測定事例等により定性的に予測	

## (3) 悪臭 評価 方法書P200

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1)環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

#### 2)環境保全のための目標等との整合の観点

安曇野市公害防止条例の規制基準(臭気指数規制)を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか評価

方法書P201～

## (4) 水質

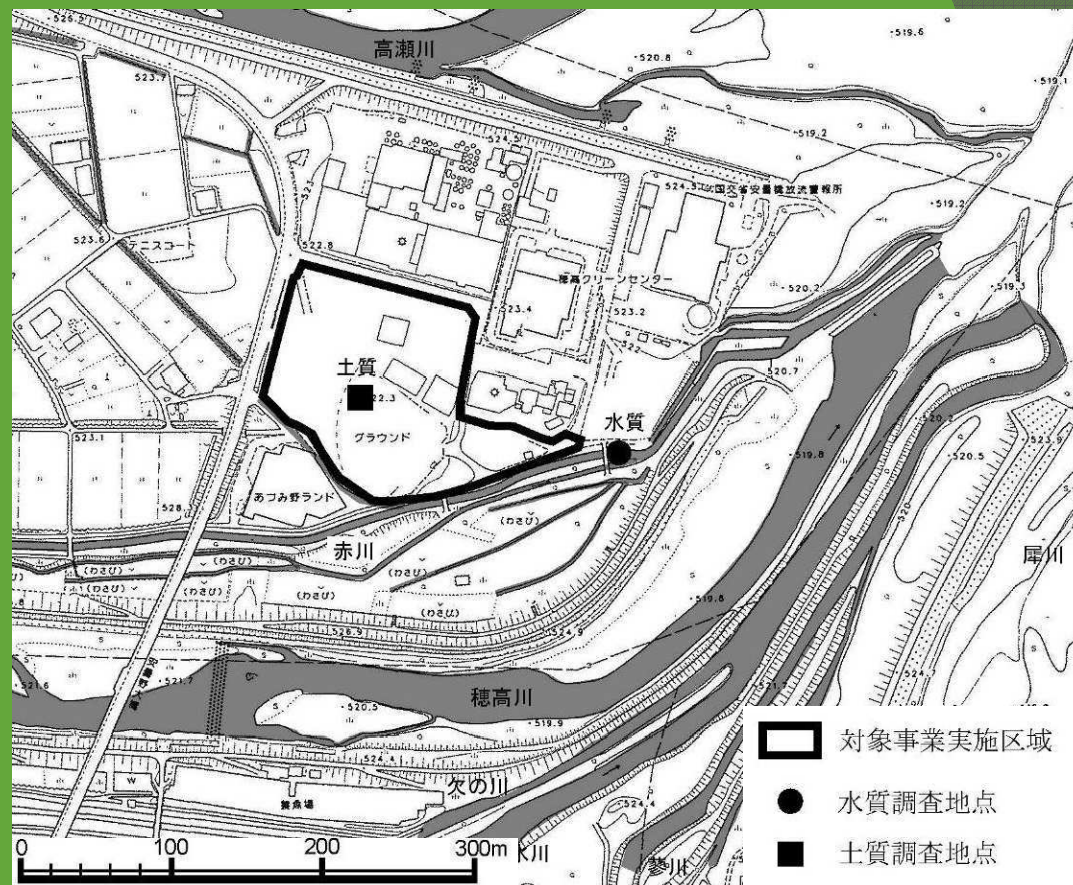
## (4)水質 調査 方法書P201～

### 調査項目

- ・平常時  
生活環境項目、健康項目、  
ダイオキシン類、流量
- ・降雨時  
pH、浮遊物質、濁度
- ・土質の状況  
粒度組成、沈降試験

### 調査頻度

- 生活環境項目:4回  
(春季、夏季、秋季、冬季)
- 健康項目、ダイオキシン類は2回  
(夏季、冬季)



# (4)水質 予測 方法書P204

## 予測事項及び予測方法

### ①工事による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成	建設工事中の雨水 (濁水)	対象事業の工事内容、水質及び土質の現地調査結果を基に類似事例の引用もしくは解析により予測	濁水放流河川
掘削			
舗装工事・コンクリート工事			

### ②存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働	水の汚れ (BOD、SS)	浄化槽の規模・性能等及び水質の現地調査結果を基に類似事例の引用もしくは解析により予測	処理後の 生活排水放流河川
	水生生物	水の汚れの予測結果を踏まえ、水生生物の生態を考慮して予測	

## (4)水質 評価 方法書P205

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1)環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

#### 2)環境保全のための目標等との整合の観点

水質に係る環境基準等を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか評価

方法書P206～

方法書P211～

方法書P213～

# (5) 水象、地盤沈下、地形・地質

# (5)水象、地盤沈下、地形・地質 調査

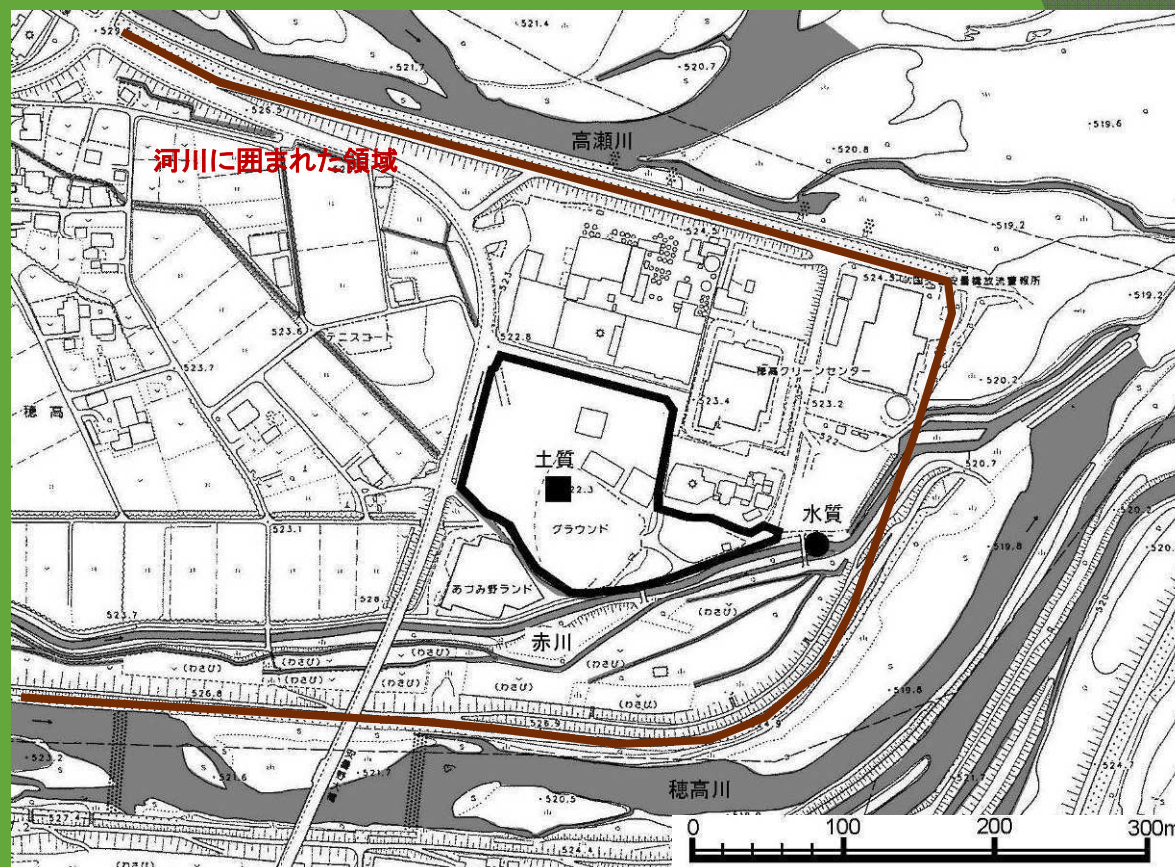
方法書P206,211,213

## 調査項目

- 湧水の分布
- 地下水の利用状況
- 地下水位
- 地形・地質

## 調査頻度

- 湧水の分布:4季
- 地下水の利用状況:1回  
(聞き取り)
- 地下水位:12回(毎月)
- 地形・地質:1回(踏査)



地下水位は観測井を設置して観測 位置は未定(地図は水質のもの)  
図の範囲内には使用されている漁業用、農業用、家庭用の井戸はない



# (5)水象、地盤沈下、地形・地質 予測

予測事項及び予測方法 方法書P207

## ①工事による影響(水象)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
掘削	地下水位	対象事業の工事内容及び地下水の現況を踏まえて類似事例の引用・解析等により予測	地下水位に係る環境影響を受けるおそれがある地域

## ②存在・供用による影響(水象)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
建築物・工作物の存在 (地下構造物)	地下水位	浄対象事業の地下構造及び地下水の現況を踏まえて類似事例の引用・解析等により予測	地下水位に係る環境影響を受けるおそれがある地域
可燃ごみ処理施設の稼働 (地下水の揚水)	地下水位	対象事業の取水量及び地下水の現況を踏まえて類似事例の引用・解析等により予測	

# (5)水象、地盤沈下、地形・地質 予測

予測事項及び予測方法 方法書P212

## ①工事による影響(地盤沈下)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
掘削	地盤沈下	対象事業の工事内容及び地下水位の現地調査結果を基に保全対策等を踏まえて予測	地下水位に係る環境影響を受けるおそれがある地域

## ②存在・供用による影響(地盤沈下)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
可燃ごみ処理施設の稼働	地盤沈下	対象事業の取水量及び地下水の現況、地質の状況を踏まえて類似事例の引用・解析等により予測	地下水位に係る環境影響を受けるおそれがある地域

# (5)水象、地盤沈下、地形・地質 予測

予測事項及び予測方法 方法書P214

工事による影響(地形・地質)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
掘削	土地の安定性	対象事業の工事内容及び地形・地質の現地調査結果を基に保全対策等を踏まえて予測	土地の安定性に係る環境影響を受けるおそれがある地域

# (5)水象、地盤沈下、地形・地質 評価

方法書P207,212,214

## 評価の内容

予測の内容に準じる

## 評価の方法

### 1)環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

### 2)環境保全のための目標等との整合の観点

水象：予測結果と環境保全目標との対比を行うことにより評価

環境保全目標は、現況を考慮し、地下水位等に著しい影響を及ぼさないこととする

方法書P208～

## (6) 土壤汚染

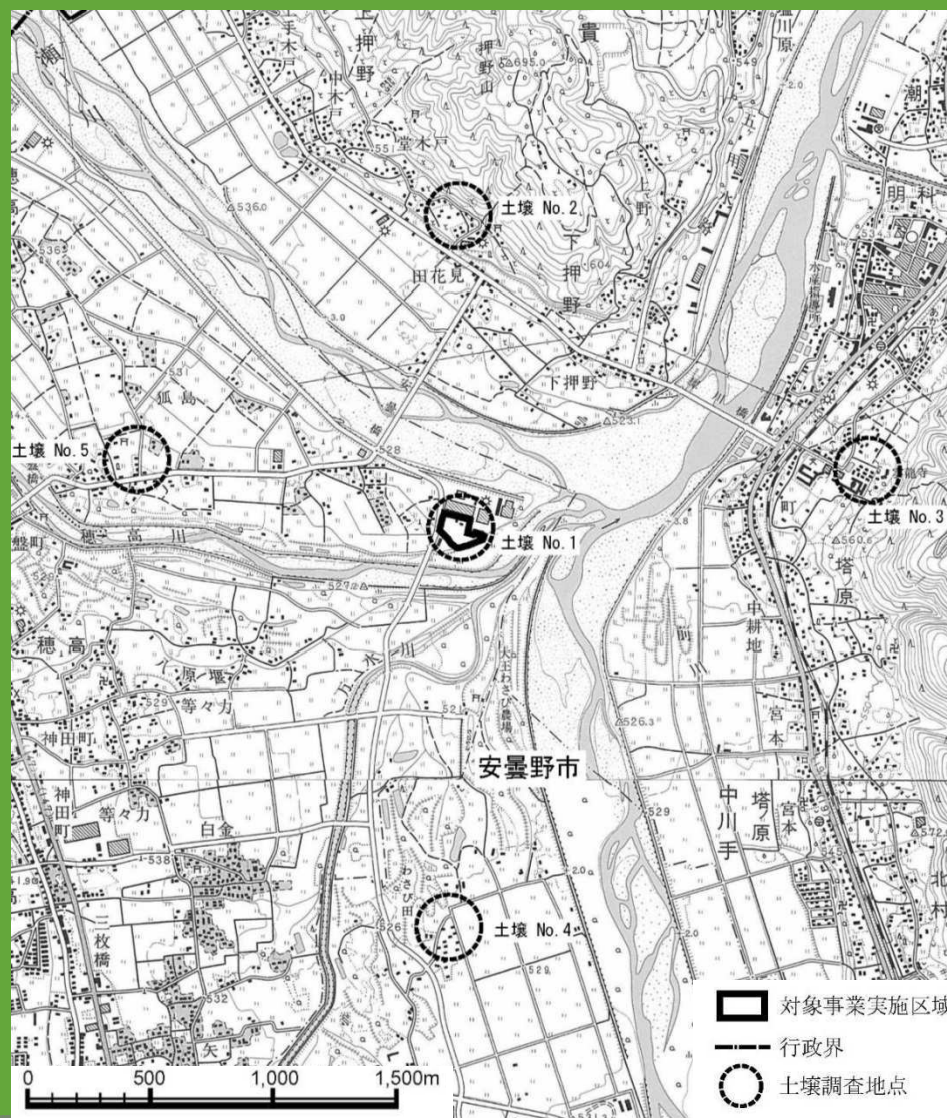
# (6) 土壌汚染 調査 方法書P208～

## 調査項目

環境基準項目  
ダイオキシン類

## 調査頻度

1回



# (6) 土壌汚染 予測 方法書P210

## 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
掘削	残土等の土壌汚染	対象事業の工事内容及び土壌の現地調査結果を基に保全対策等を踏まえて予測	対象事業実施区域

### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
可燃ごみ処理施設の稼働	土壌中ダイオキシン類濃度	大気質におけるダイオキシン類の予測結果を基に、土壌ダイオキシン類濃度を予測	最大着地濃度地点及び土壌の現地調査地点
廃棄物の排出・処理	環境基準項目及び土壌中ダイオキシン類濃度	対象事業の廃棄物の搬出・処理計画及び類似事例等を基に予測	対象事業実施区域

## (6) 土壌汚染 評価 方法書P210

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1) 環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

#### 2) 環境保全のための目標等との整合の観点

土壌の汚染に係る環境基準及びダイオキシン類に係る土壌の環境基準を環境保全目標として、その目標との整合が図られているか評価



方法書P215～ 方法書P218～ 方法書P222～

## (7) 植物、動物、生態系

# (7) 植物、動物、生態系 調査 方法書P215,218,222

## 調査項目

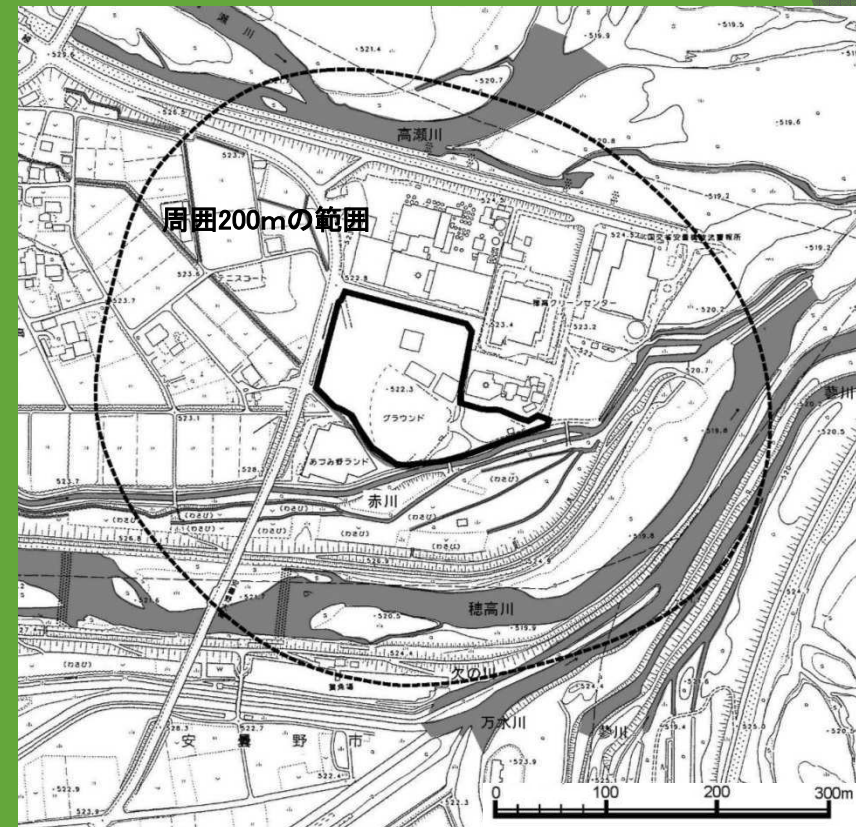
### ①植物

植物相、植生、  
注目すべき個体、集団、種及び群落

### ②動物

動物相  
注目すべき種及び個体群  
(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、  
昆虫類、陸産貝類、水生生物)

### ③生態系



## (7) 植物、動物、生態系 調査



「地理院地図 GSI Map」国土地理院電子国土Webより

## (7) 植物、動物、生態系 調査 方法書P215,218

### 調査方法、調査頻度、時期等

#### ①植物

植物相：現地踏査(4回：早春、春季、夏季、秋季)

植生：植物社会学的手法、現存植生図(2回：夏季、秋季)

注目すべき個体、集団、種及び群落：分布、生育地の条件等の確認  
(4回：早春、春季、夏季、秋季)

#### ②動物

哺乳類：任意観察、センサーカメラ、フィールドサイン法、トラップ法  
(4回：春季、夏季、秋季、冬季)

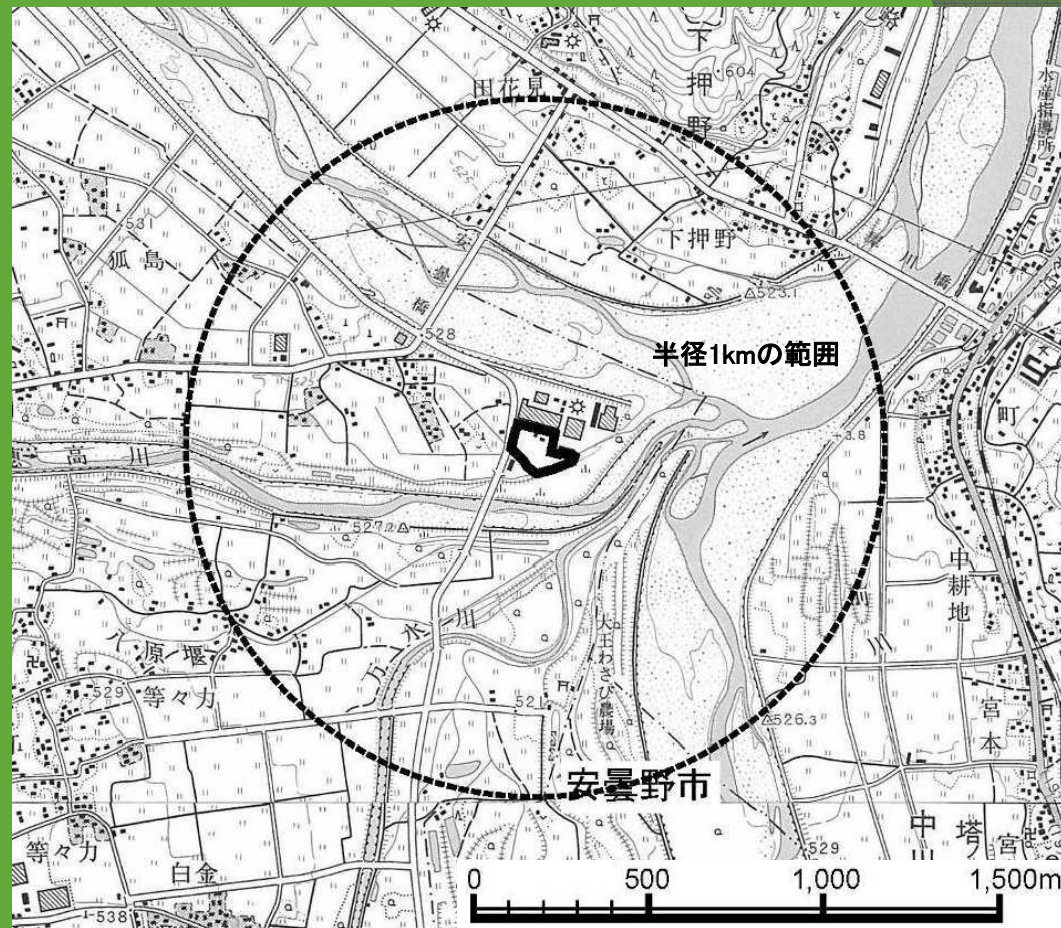
鳥類：ラインセンサス法、ポイントセンサス法、踏査による任意確認  
(5回：春季、初夏、夏季、秋季、冬季)

両生類・爬虫類：任意観察、トラップ法(4回：春季、初夏、夏季、秋季)

## (7) 植物、動物、生態系 調査 方法書218

鳥類については、範囲を半径1kmまで適宜拡大して調査

希少猛禽類が確認された場合には、対象種の繁殖期を踏まえ、必要に応じ調査期間・頻度を拡充して生息状況を把握する



## (7) 植物、動物、生態系 調査 方法書P218,222

### 調査方法、調査頻度、時期等

#### ②動物(つづき)

昆虫類:任意採集、ライトトラップ法、ベイトトラップ法  
(4回:春季、初夏、夏季、秋季)

陸産貝類:任意確認(4回:春季、初夏、夏季、秋季)

水生生物(魚類・底生生物):任意採集、底生動物コドラート法  
(4回:春季、夏季、秋季、冬季)

#### ③生態系

植物、動物の調査結果等の解析  
(生態系そのものを対象とした現地調査は実施しない)

# (7) 植物、動物、生態系 方法書P217

## 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響(植物)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成	植物相 植生 注目すべき個体、 集団、種及び群落	対象事業の計画と現地調査結果を 重ね合わせ、直接的・間接的影響 による変化の程度又は消滅の有無 について類似事例等により予測	調査地域に準じる
掘削 舗装工事・コンクリート工事			

### ② 存在・供用による影響(植物)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
緑化	植物相 植生 注目すべき個体、 集団、種及び群落	対象事業の計画と現地調査結果を 重ね合わせ、直接的・間接的影響 による変化の程度又は消滅の有無 について類似事例等により予測	調査地域に準じる
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働			
夜間の照明等			

# (7) 植物、動物、生態系 方法書P221

## 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響(動物)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成 掘削 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	動物相 注目すべき種及び 個体群	対象事業の計画と現地調査結果を 重ね合わせ、直接的・間接的影響 による変化の程度又は消滅の有無 について類似事例等により予測	調査地域に準じる

### ② 存在・供用による影響(動物)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
緑化 可燃ごみ処理施設の稼働 夜間の照明等	動物相 注目すべき種及び 個体群	対象事業の計画と現地調査結果を 重ね合わせ、直接的・間接的影響 による変化の程度又は消滅の有無 について類似事例等により予測	調査地域に準じる



# (7) 植物、動物、生態系 方法書P222

## 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響(生態系)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成 掘削 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	生態系	対象事業の計画と現地調査結果を重ね合わせ、直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について類似事例等により予測	調査地域に準じる

### ② 存在・供用による影響(生態系)

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
緑化	生態系	対象事業の計画と現地調査結果を重ね合わせ、直接的・間接的影響による変化の程度又は消滅の有無について類似事例等により予測	調査地域に準じる
可燃ごみ処理施設の稼働			
夜間の照明等			

## (7) 植物、動物、生態系 評価 方法書P217,221,223

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1) 環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

方法書P224～

## (8) 景観

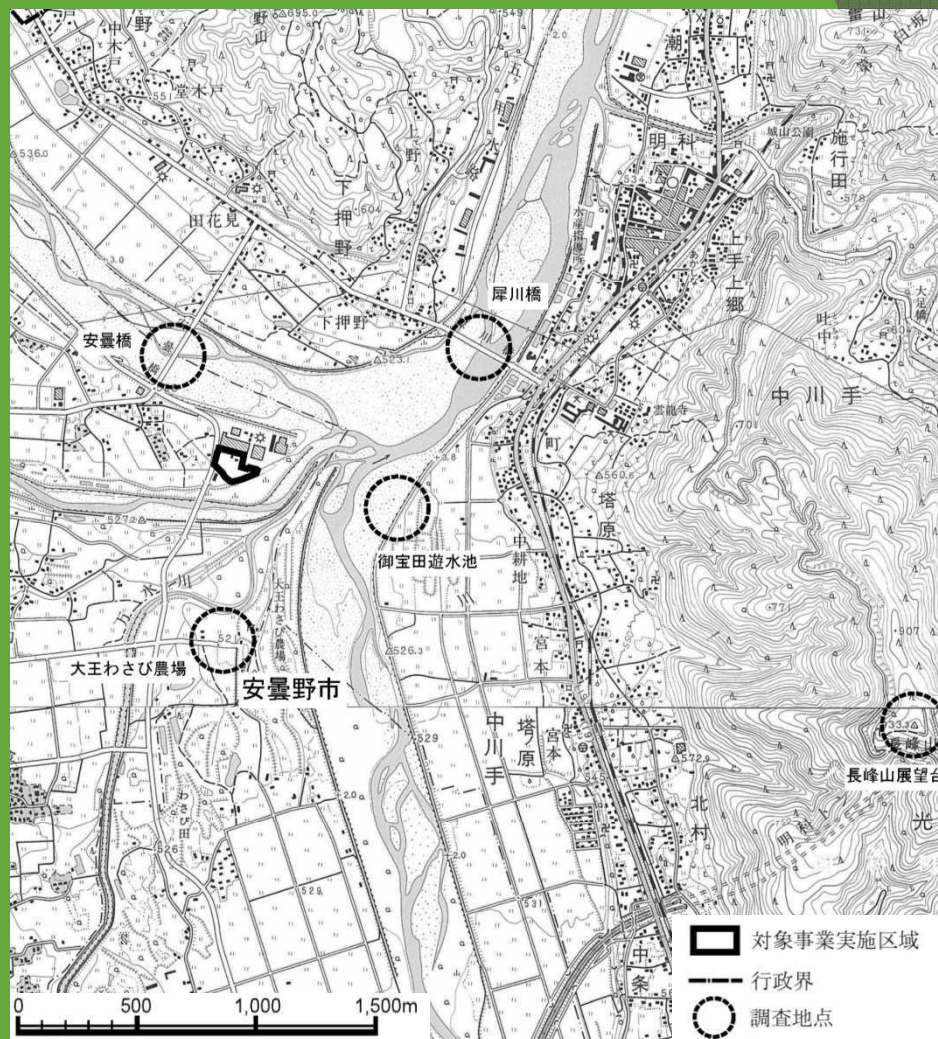
# (8) 景観 調査 方法書224

## 調査項目

景観資源及び構成要素  
主要な景観

## 調査頻度

景観資源及び構成要素: 1回  
主要な景観: 4回  
(春季、夏季、秋季、冬季)



## (8) 景観 予測 方法書P226

### 予測事項及び予測方法 存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
建築物・工作物等の存在	景観資源及び構成要素 主要な景観	直接的・間接的影響による変化の程度について、対象事業計画との重ね合わせ、フォトモンタージュ法等により予測	調査地域に準じる
緑化			

## (8) 景観 評価 方法書P226

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1) 環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

方法書P227～

## (9) 触れ合い活動の場

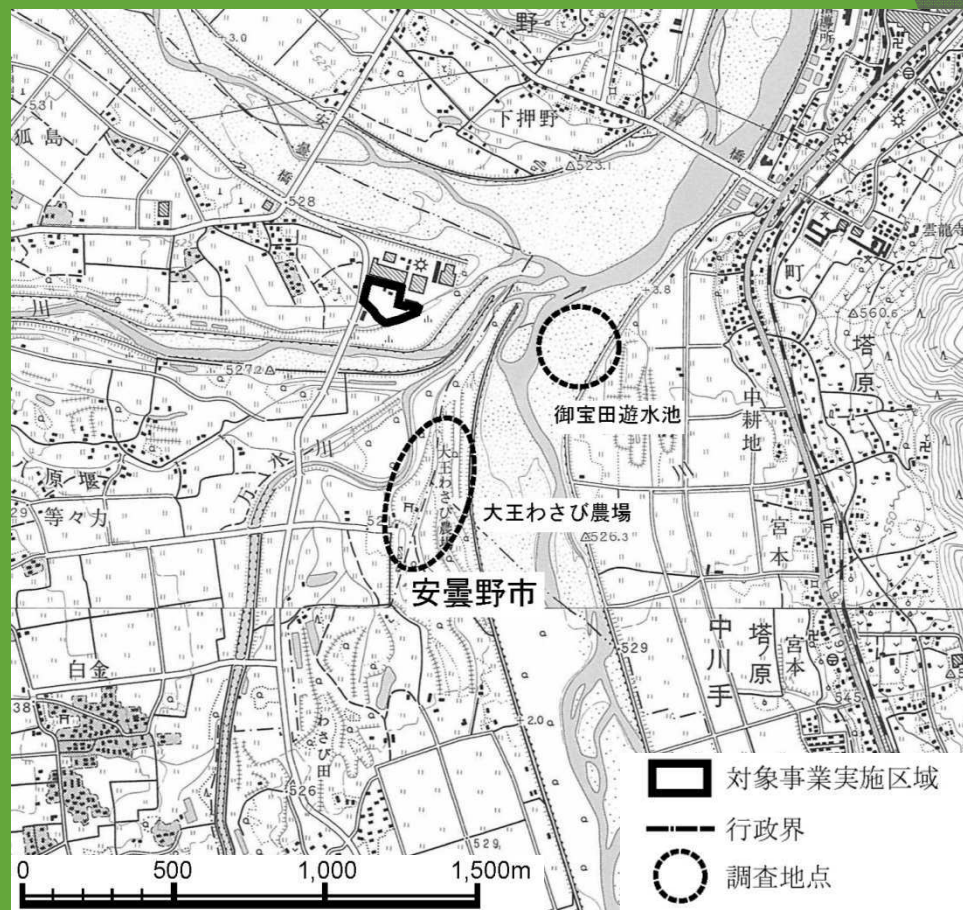
# (9) 触れ合い活動の場 調査 方法書227

## 調査項目

利用状況  
交通量の状況

## 調査頻度

利用状況: 4回  
(春季、夏季、秋季、冬季)  
交通量の状況: 2回  
(夏季、冬季)





# (9) 触れ合い活動の場 予測 方法書P229

## 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
資材等の運搬	交通の状況	工事関係車両の走行台数を踏まえ、渋滞に対する影響を予測	調査地域に準じる
土地造成、掘削 舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	騒音・振動の状況	騒音、振動の評価結果に基づき予測	

### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
建築物・工作物等の存在 緑化	眺望景観	景観の評価結果に基づき予測	調査地域に準じる
自動車交通の発生	交通の状況	廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえ、渋滞に対する影響を予測	
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働	騒音・振動、低周波音、悪臭の状況	騒音、振動、低周波音及び悪臭の評価結果に基づき予測	

## (9) 触れ合い活動の場 評価 方法書P230

### 評価の内容

予測の内容に準じる

### 評価の方法

#### 1) 環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

方法書P231～

# (10) 廃棄物等

# (10) 廃棄物等 予測 方法書P231

## 予測事項及び予測方法

### ① 工事による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
土地造成 掘削	廃棄物の発生 副産物の発生	工事の施工計画、環境保全対策及び類似事例の参照等により予測	対象事業実施区域
舗装工事・コンクリート工事 建築物の工事	廃棄物の発生		
廃材・残土等の発生・処理	廃材・残土等の発生		

### ② 存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
廃棄物の排出・処理	廃棄物の発生	事業計画、環境保全対策及び類似事例の参照等により予測	対象事業実施区域

# (10) 廃棄物等 評価

方法書P232

## 評価の内容

予測の内容に準じる

## 評価の方法

### 1) 環境に対する影響緩和の観点

環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

### 2) 環境保全のための目標等との整合の観点

廃棄物等に係る長野県建設リサイクル推進指針を参考として環境保全目標を設定し、その目標との整合が図られているか評価

方法書P233～

# (11) 温室効果ガス等

# (11) 温室効果ガス等 予測 方法書P233

## 予測事項及び予測方法 存在・供用による影響

影響要因	予測項目	予測方法	予測地域、地点
自動車交通の発生	温室効果ガス発生量	現状と将来のごみ収集車の走行距離の変化から、温室効果ガス等の排出量の増加の程度を予測	廃棄物運搬ルート
可燃ごみ処理施設の稼働 破碎施設の稼働	温室効果ガス発生量	事業計画、環境保全対策及び類似事例等を参照し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により予測	対象事業実施区域

# (11) 温室効果ガス等 評価 方法書P234

## 評価の内容

予測の内容に準じる

## 評価の方法

### 1) 環境に対する影響緩和の観点

温室効果ガス等に係る環境影響が実行可能な範囲でできる限り回避又は低減され、環境保全への適正な配慮がなされているか評価

### 2) 環境保全のための目標等との整合の観点

温室効果ガス等に係る長野県地球温暖化防止県民計画における削減目標を参考として環境保全目標を設定し、その目標との整合が図られているか評価